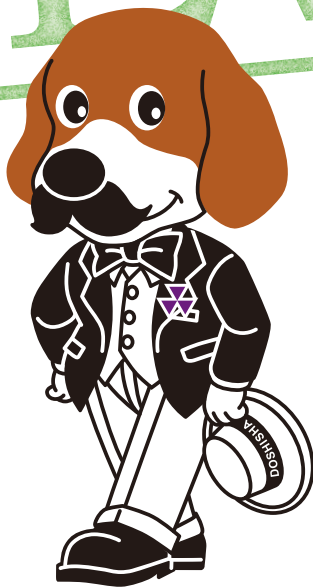


CAMPUS キャンパスニュース NEWS



同志社大学に 新しいキャラクター登場！

2008年11月6日、新島襄生誕165周年記念事業の一環として、本学を紹介するキャラクター「Beck」読み：ベんけい）が誕生した。モデルとなったのは、新島が晩年旧邸にて飼っていたビーグル犬「弁慶号」。旅先から様子を心配する書簡を送ったり、スタジオで一緒に写真撮影をするなど、新島は弁慶号を大変かわいがっており、弁慶号は療養先で亡くなった主人の帰りを待ち続けていたという。

正装に同志社徽章をつけた品格あるいでたちと、新島ゆずりの豊かな口ひげが特徴。また番犬として建学の精神を守り、猟犬として果敢に物事にチャレンジするという性格の持ち主である。

既に印刷物やホームページ、広告物などで大忙しのBeck。新島に続く本学の顔として、今後の活躍が期待されている。
※新島と弁慶号の詳しいエピソードは、webサイト「新島遺品庫資料の公開」【部分

公開】ショートストーリー」(<http://joseph.doshisha.ac.jp/hinfo/pubun2/column/index.html>)にぜひご覧いただけます。

(広報課)

心理学部 開設記念シンポジウム開催

2008年11月29日、「心育の時代」と題して心理学部開設記念シンポジウムを開催した。会場となった寒梅館ハーディーホールは、本学学生・教職員のほか一般の来聴者が会場を埋め、予定の終了時間を1時間程度オーバーする盛況ぶりであった。シン



は日々新しいことに出会い、リセットがきかないため、毎日が本番という思いをもつことを、茶道の根幹にある「一期一会」の精神に照らして親しみやすく紹介された。

後編のパネルディスカッションは、作家玉岡かおる氏をお迎えし、産経新聞編集委員萩原靖史氏をコーディネーターとして、心理学科鈴木直人教授、余語真夫教授、青山謙二郎教授によって討論が行われた。"しなやかで、豊かな心求めて"をテーマに進められた討論の中で、玉岡氏は、小説よりも『安』価で、手『近』に知識だけを簡『単』に取り込める新書が売れる現代を、『安近単』の時代と憂慮し、日本人が大切にしてきた「心」の時代を取り戻すためにも、「情」の世界の探求が重要であると示唆した。余語教授も、楽しいことだけではなく、悲しみや人の弱さにも目を向け、互いに理解し認め合うことが大切であることを、心理学における感情コントロールの手法を紹介しながら解説。また青山教授も、人は「時間をかけて手にする、将来の大きな報酬」よりも、

「今すぐ得られる報酬」に傾きがちであることを実証的な観点から紹介。子供も大人も「待つことが難しい」社会になって来ていることを指摘し、鈴木教授は、子供の多様な能力を大人が引き出すことの重要性を説いた。

シンポジウムの司会は、フリーアナウンサーとして活躍中の羽川英樹氏が務めた。千氏と同じく、本学心理学専攻卒業の羽川氏は、進行の所々で学生時代の思い出を紹介した。大学周辺の様子は随分変わったが、西門からクラーク館までの通りは昔のまま、久しぶりに訪れたキャンパスの印象を語った。

なお、田中あゆみ専任講師と心理学科生によるオーケストラがシンポジウムのオープニングを飾ったほか、舞台上では、浜崎英子氏（心理学専攻卒業生・華道家）制作による生花が会場の雰囲気彩った。

シェフィールド大学 同志社センター 設置記念講演会を開催

2009年9月にシェフィールド大学同志社センターが設置されることを記念し、1月9日、クラーク記念館2階クラーク・チャペルにて、講演会を開催した。

シェフィールド大学同志社センターは、今出川キャンパスに設置され、シェフィールド大学東アジア研究所で日本学を専攻している学部生が参加する短期留学プログラムを開始する。このプログラムに参加するシェフィールド大学の学生は、日本語や日本文化を学びながら、同志社大学で開講する科目を履修し、学生生活を送ることになる。

講演会では、八田英二同志社大学学長、ドミニク・シェラード・シェフィールド大学副学長を始めとして、各講演者が、両大学の国際化におけるセンター設置の意義について意見を發表した。

講演の中で、ドミニク・シェラード副学長は、「シェフィールド大学同志社センターは、両大学に対して、教育連携の開発や共同研究の促進といった素晴らしい機会を提供することになるでしょう。また我々はグローバルな世界で急速に活動を広げていますが、このセンター設置は、両大学がお互いの国際的な地位を強化するために、いかに協力し合うかということを示した非常に優れた例であるといえるでしょう」

「我々はこのセンターが、東アジア研究と大学全体に果たす役割を高く評価しています。我々は、今後何年にもわたり日本との関係を強化することを期待し、このセンターの繁栄を心から楽しみにしています」と述べた。

また、八田英二学長は、「日本国内の760もの国公立私立の4年制大学の中から、シェフィールド大学にこのようなセンターを設置する場として本学を選んだことは、大変名誉であり光栄なことです。両大学の近い相互関係が今後も継続し、我々のキャンパスが若い学生に



とって国際交流の場となること、グローバルな市民を育成することにより両大学が一緒になつて社会に貢献することを期待しています」と述べた。

シェフィールド大学と同志社大学とは、1997年に協定を締結し、既に強い繋がりを持っているが、このセンターの設置により、教育研究、その他の活動において、既存の学術及び文化交流の強化を期待できる。またシェフィールド大学同志社センターは、同志社大学の学内に設置される最初のイギリスの大学機関

で、海外の大学機関としては、AKP同志社留学生センター、テュービンゲン大学同志社日本語センター、スタンフォード技術革新センターに続き、4番目の機関となる。

シェフィールド大学同志社センター所長に就任予定のシェフィールド大学東アジア研究所リチャード・シ

ドル教授は、「シェフィールド大学同志社センターは、シェフィールドの学生に、日本の歴史的な文化の中心地で学べる素晴らしい機会を与え、彼らは一流の日本の大学で日本文化と日本語に没頭することができるとなるでしょう。私は、このセンターの初代所長となることを光栄に思い、またその刺激的な環境の中で仕事が出来ることが楽しみにしています」とコメントを發表している。

（国際センター）

DOSHISHA Forum in UK on International Strategy 開催

1月18日（ロンドン市内に於けるThe Grange Holborn Hotel）において「DOSHISHA Forum in UK on International Strategy」を開催した。本学は、国際戦略のアクションプランを打ち立てて順次実行しているが、海外で様々な取組みを展開していくには、現地在留の卒業生をはじめとした本学の教育研究に理解の深い方々の支援・協力が欠かせない。

本フォーラムは、このような背景から、現地滞在の校友の状況を掴んだうえで組織化を図り強固な体制を築く契機とすると、また、本学が今後展開していく国際戦略を校友に理解いただき、拠点形成や派遣学生、生活サポート、教育・研究プロジェクトの環境整備等、様々な面で支援・協力いただけるよう情報発信・意見交換を図ることを目的に英国クロウバー・クラブの協力を得て実現した。

なお、学校法人同志社の諸学校が連携協力し、それぞれが持つネットワークを有効に活用していくため、同志社女子大学や同志社国際中学校・高等学校からも代表者が出席し、当日は、EU圏に滞在する大学・女子大学の卒業生、大学と女子大学から留学中の現役学生等、約70人の出席があった。第一部は、八田学長による本学の現状報告と将来計画の説明、片山副学長による同志社インターナショナル小学校（※）等の紹介、同志社女子大学や国際中学校・高等学

校代表による自校の説明、黒木副学長による本学の国際戦略の説明という構成であった。その後、国際的に通用する教育本学における日本語教育の発信、周知、現地校友の結束等の課題について、参加者と有意義な意見交換がなされた。

第2部の交流会では、英国クローバー！クラブの前田隆会長（1954年商学部卒）による乾杯の後、本学関係者、卒業生、現役学生との活発な交流を行い、一同で Doshisha College Song を斉唱し、盛会のうちに終了した。

※名称はフォーラム開催当時の仮称。
正式名称は「同志社国際学院」に決定。

（企画課・国際課）



敷地内禁煙実現に向けて

受動喫煙を防ぐよう定めた健康増進法が施行され、すでに6年になるうとしていいる。全国の大学は学内の禁煙化に邁進し、徐々に敷地内禁煙を決断し始めており、本学もそれを目指し、漸次喫煙場所の減少を図っているところである。保健センターでは従来の禁煙支援に加え、保険診療による禁煙外来を行っている。また昨年12月には、全学的な規模で第1回喫煙マナー向上キャンペーンを京田辺校地で実施できたことは大きな前進であった。

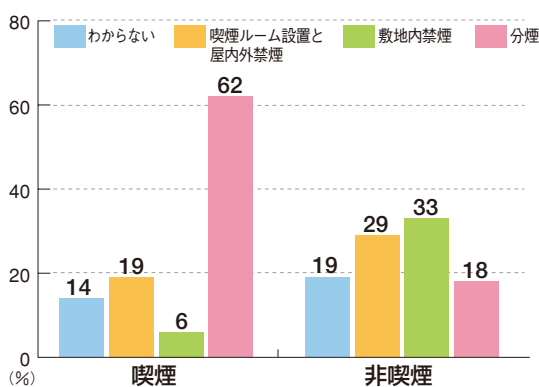
喫煙に影響する背景因子の重要性

	因子
1	学年(高学年になるほど)
2	両親の喫煙
3	住居(下宿)

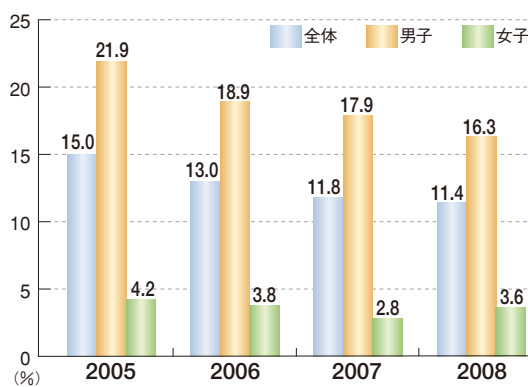
2008年度喫煙状況調査は、従来の内容に生活習慣の項目を加え、喫煙と生活習慣との関連、喫煙に影響する背景因子学内たばこ環境に対する意識について実施し、興味深い結果を得た。本学の喫煙率は2008年度11.4%(全体)で年々減少してきているが、依然として入学後喫煙を開始する学生が多いのが現状である。また、喫煙と生活習慣の関連をみると、喫煙者だけでなく喫煙をやめた者も非喫煙者に比べ、飲酒夜更かし、朝食欠食など望ましくない生活習慣を合わせ持っていることがわかった。残念ながら禁煙しても生活習慣の改善までは難しいようである。また喫煙に影響する背景因子は①学年(高学年になるほど)②両親の喫煙③住居(下宿)の順

であった。さらに、学生の大多数を占める非喫煙者は、現状のたばこ環境を悪いと感じ、敷地内禁煙を希望していることも判明した。社会全体の禁煙化に伴い、学生の意識も年々高くなっているようである。

●環境への期待



●喫煙率の推移



2008年3月～2009年1月の申込者

	申込件数	申込額
・卒業生 ・ご父母 ・一般	71件	5,536,187円
教職員	57件	3,637,000円
合計	128件	9,173,187円

経済的理由で修学を続けることが困難になっている学生を援助するために、2004年4月から「同志社大学特定寄付奨学金募金」を広く社会各界に呼びかけています。

2009年1月末までに、卒業生、ご父母、一般の方々および教職員から以下のとおりご協力をいただきました。

特定寄付奨学金 募金協力者ご芳名

大学生生活を健康に過ごすためには、よい生活習慣を持つことが基本であり、たばこを吸わないことが健康のためのいちばんの近道といえるだろう。

そして、学生・教職員全員が社会の禁煙化に関心を持ち、大学の敷地内禁煙の実現に向けて一人一人が「何をして欲しいかではなく、何ができるか」を共に考えていきたい。

(保健センター)

【芳名(敬称略、順不同)】

【卒業生、ご父母一般】

1,000,000円	山本雅昭
900,000円	同志社生活協同組合
500,000円	濱井健嗣
335,187円	同志社大学教職員組合経済学部支部
300,000円	同志社校友会
250,000円	市川稔晃
200,000円	森田秀夫
200,000円	岡市廣成
100,000円	野里一重
100,000円	同志社ESS東京OB会
60,000円	藤原東
50,000円	燦ホールディングス株式会社
40,000円	三原誠治
30,000円	山沖洋一
30,000円	内河謙二
25,000円	山本正宣
20,000円	近藤茂利夫
20,000円	天田喜久
20,000円	今村浩一
20,000円	青木石根
20,000円	岩見登
20,000円	藤原喜久雄
20,000円	石井頼一郎
20,000円	河村忠紀
20,000円	鈴木勢二
20,000円	石原博
20,000円	小島弘
20,000円	佐藤信夫
20,000円	小田邦宏
20,000円	永田尚路
20,000円	大川勇
20,000円	水口潔
20,000円	稲垣正一
20,000円	渡辺弘道
20,000円	池田敦史
20,000円	松本邦博
20,000円	江端良二
20,000円	廣澤美智子
20,000円	豊田俊一
20,000円	吉村惇
20,000円	和田忠夫

6,000円

河島哲也

5,000円

倉田誠子

5,000円

堀井泰史

5,000円

有吉忠一

5,000円

山口啓二

5,000円

海和博司

5,000円

伊勢戸敏信

5,000円

福谷政行

【教職員】

300,000円	三上保孝
200,000円	宇治郷毅
150,000円	工藤和男
120,000円	高田紀美
110,000円	亀田尚己
60,000円	西川真司
60,000円	長澤邦彦
60,000円	植村巧
60,000円	高田芳樹
60,000円	林克樹
60,000円	石田修一
55,000円	三好博昭
50,000円	平山朋子
50,000円	富田安信
35,000円	肥田美智子
30,000円	八木匡
20,000円	久保真人
12,000円	北幸史
10,000円	土屋隆生
10,000円	土佐卓司

【芳名のみ(金額非掲載)】

宮庄哲夫	吉田謙二	藤井邦宏	兼重雅好
齊藤延喜	黒木保博	北寿郎	新茂之
越川弘英	今川晃	黄秋子	森康維
白石健治	岡市徹	戸田裕之	
1,150,000円(匿名合計)	匿名22人		

※教職員については新たに2009年から2013年度までの申込を受け付けています。なお今回は2008年度寄付額(2008年4月〜2009年3月)のみの金額を掲載しています。

当募金は継続的に行っていますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

財務部資金課 TEL:075-251-3150
e-mail:ji-skin@mail.doshisha.ac.jp

本学教職員の執筆図書を紹介

(総合情報センター調べ(価格は税別))

自由で責任あるメディア	渡辺武達 訳 論創社 1800円
北野天神縁起を読む	竹居明男 編 吉川弘文館 2800円
台湾女性史入門	竹内理輝 他 編纂 人文書院 2600円
アイゼンク教授の心理学ハンドブック	鈴木直人 他 訳 ナカニシヤ出版 2600円
日本型環境教育の知恵	西村仁志 他 小学館 1800円
郷愁30里 国際鄭芝蘭文學SEMINAR	宇治郷毅 他 執筆 鄭芝蘭記念社 1500円
日中映画論	阿部範之 他 訳 作楽社 2800円
「愛」と「性」の文化史	佐伯順子 著 角川学芸出版 1500円
社会国家を生きる	川越修 他 執筆 法政大学出版 3600円
ブリッジブック法システム入門	武蔵勝宏 他 執筆 信山社 2600円
業態の盛衰	田村正紀 著 千倉書房 2800円
観光学への扉	井口貴 西村幸子 他 執筆 学芸出版社 2600円
平和を勝ち取る	小野塚佳光 他 訳 岩波書店 6800円
思想としての翻訳	三ツ木道夫 編訳 白水社 3400円
ユダヤ人と国民国家	手島勲矢 他 執筆 岩波書店 5600円
逐条解説会社法(第4巻)	森田章 早川勝 他 執筆 中央経済社 5000円

Present for you



阪神タイガース 投手 渡辺 亮さん サイン色紙プレゼント

本号「同志社人訪問」にご登場の渡辺亮さんから、サイン色紙をいただきました。ご希望の方はハガキかe-mailで、住所、氏名、学部(卒業生の方は出身学部と卒業年)、One Purposeの感想をご記入の上、2009年5月31日(消印有効)までにご応募ください(渡辺亮さんのサイン色紙希望と必ず明記のこと)。

抽選で5名の方にプレゼントいたします。

※広報課の連絡先は裏表紙に記載しています。

※収集した個人情報は、色紙送付ならびにアンケート内容の分析のみに使用します。

新任教員紹介

このたび新たに37人の先生方をお迎えしました。

①所属(学科) ②職名 ③主な担当科目



池田 晴奈
(いけだ はるな)
①法(法律)
②助教
③リーガル・リサーチ



原田 伸一郎
(はらた しんいちろう)
①法(法律)
②助教
③リーガル・リサーチ



荻野 奈緒
(おぎの なお)
①法(法律)
②助教
③不法行為法



黒坂 則子
(くろさか のりこ)
①法(法律)
②准教授
③環境法



森山 智彦
(もりやま とむひこ)
①社会(産業関係)
②助教
③産業調査実習Ⅰ・Ⅱ



大沼 由布
(おおぬま ゆふ)
①文(英文)
②助教
③Communicative English Skills A1・II



藤井 光
(ふじい ひかる)
①文(英文)
②助教
③Communicative English Skills C1・II



横井 克典
(よこい かつのり)
①商
②講師
③スタディ・メソッド



山本 勝也
(やまもと かつや)
①商
②講師
③スタディ・メソッド



内田 浩徳
(うちだ ひろのり)
①商
②講師
③スタディ・メソッド



稲井 誠
(いない まこと)
①商
②講師
③スタディ・メソッド



英 邦広
(はなぶさ くにひろ)
①商
②講師
③スタディ・メソッド



西川 純平
(にしがわ じゅんぺい)
①商
②専任講師
③アジア経済論



田淵 太一
(たぶち たいち)
①商
②教授
③世界経済論



後藤 琢也
(ごとう たくや)
①理工(環境システム)
②准教授
③環境システム基礎実験



青山 安宏
(あおやま やすひろ)
①理工(機能分子・生命化)
②教授
③機能分子工学実験Ⅰ



西田 昌史
(にしだ まさひ)
①理工(情報システムデザイン)
②准教授
③プログラミングJavaⅠ



吉見 真聡
(よしみ まさと)
①理工(インテリジェント情報工)
②助教
③オペレーティングシステム



土屋 誠司
(つちや せいじ)
①理工(インテリジェント情報工)
②助教
③知識情報処理



鄭 躍軍
(てい やくくん)
①文化情報
②教授
③社会調査法



小谷 真理
(こたに まり)
①政策
②専任講師
③行政法入門



荻野 美穂
(おぎの みほ)
①アメリカ研究科
②教授
③構成員28(アメリカのジェンダーと社会)



上北 朋子
(うえきた ともこ)
①心理
②助教
③神経・行動心理学実験演習



興津 真理子
(おきつ まりこ)
①心理
②准教授
③発達・教育心理学実験演習



中谷内 一也
(なかやち かずや)
①心理
②教授
③産業・組織心理学



神山 貴弥
(こやま たかや)
①心理
②教授
③教育心理学



藤田 紀昭
(ふじた もとあき)
①スポーツ健康科
②教授
③障がい者スポーツ論



浦野 泰臣
(うらの やすおみ)
①生命医科(医生命システム)
②助教
③医生命基礎実験



Monique LE LARDIC
(もにく るらでいっく)
①言語文化教育研究センター
②准教授
③フランス語インテシヴⅠ



Timothy James CRAIG
(ていもしー じえいむすくれいぐ)
①言語文化教育研究センター
②教授
③英語文化事情Ⅰ



徳田 和幸
(とくだ かずゆき)
①司法研究科
②教授
③民事法総合演習Ⅱ



錦織 成史
(にしきり せいし)
①司法研究科
②教授
③民事法総合演習Ⅰ



森本 滋
(もりもと しげる)
①司法研究科
②教授
③民事法演習Ⅳ



古江 頼隆
(ふるえ よりたか)
①司法研究科
②教授
③刑事訴訟実務の基礎



Andrew STAPLES
(あんどりゅー すていぷるず)
①ビジネス研究科
②特別客員教授
③Asian Business and ManagementⅠ・Ⅱ

退職教員 2009年3月31日付で、次の先生方が退職されました。

■文学部 教授 吉田 謙二
■文学部 講師 谷口 弘一
■社会学部 教授 松村 彰
■法学部 教授 佐藤 義彦
■商学部 教授 中村 宏治
■政策学部 講師 白瀬 由美香
■理工学部 教授 河岡 司
■理工学部 教授 戸高 敏之

■理工学部 講師 鈴木 智也
■理工学部 実験講師 森 延孝
■司法研究科 教授 伊藤 昌司
■言語文化教育研究センター 教授 東 宏治
■言語文化教育研究センター 教授 松下 マルタ
■言語文化教育研究センター 講師 金 善美
■言語文化教育研究センター 講師 Peter NEFF



Jan AURACHER
(やん あうらっはー)
①言語文化教育研究センター
②助教
③ドイツ語応用Ⅰ



Linh PALLOS
(りん ぼろす)
①言語文化教育研究センター
②助教
③英語文化事情Ⅰ

与えられたものの記憶

7、8年も前の話になるだろうか。当時、私のゼミに在籍していた3年次の学生2名が興味深いデータを見せてくれたことがある。卒論に取りかかる前のトレーニング（social support）に関するデータを集めることになった。ソーシャルサポートとは、周

围の人々から得られる有形・無形の援助のことである。当然のことながら、ある特定の個人はサポートを受ける立場にも、サポートを提供する立場にもなる。彼女らはこのようなソーシャルサポートの授受に関心を持ち、「より多くのサポートを受けている人は、より多くのサポートを提供しているか」をテーマに調査を開始した。

調査に協力してくれたのは72名の大学生である。彼らには、日ごろから親しくしている友人1名と、挨拶を交わす程度の知り合い1名を具体的に思い浮かべてもらい、それぞれの相手について次の二つの視点で回答を求めた。一つ目の視点は、「思い浮かべた相手から、自分は日頃どの程度サポートを受けているか？」であり、二つ目は、「同じ相手に対して、自分はどの程度サポート

を提供できているか？」である。例えば、前者については「落ち込んでいたら元気づけてくれる」という項目に、後者は「落ち込んでいたら元気づけてあげる」という項目にどの程度あてはまるかという方法で、具体的なサポート内容を記した項目群に回答してもらった。

データの分析は進み、「単なる知り合い」よりも「親しい友人」との間で多くのサポートのやりとりがなされていること、またどちらとの関係においても、受けるサポートが多い人は提供するサポートも多いこと（逆に言うと、受けるサポートが少ない人は提供するサポートも少ないこと）が分かった。ここまでは予想通りの結果であり、考察もしやすい。けれど、せっかくなので、もう少し踏み込みたいところである。他に何か読み取れることはないだろうか、と考えていた時に目を引いたのが、「受けている」サポート量と「提供している」サポート量の得点差だった。まず、全対象者の平均値を比べると、相手が親しい友人、あるいは単なる知り合いのいずれであっても、「受けている」サポートより「提供している」サポート

の得点が高かった。そこで、個別のデータを確かめてみると、親しい友人との間では72名中64名（88%）が、単なる知り合いとの間でも同66名（91%）が、「受けている」サポートよりも「提供している」サポートの方が多いと感じていることが明らかになったのである。

確かに、ある特定の人物との一対一の関係では、サポートの提供者がどちらか一方に偏るという現象は起こり得る。しかし、調査対象者のうち9割前後もの人々が「自分の方がサポートしている」と感じているらしいという結果は、少々奇異ではないか。72名の大学生という非常に限定されたサンプルではあるけれど、ここで得られたデータが示唆するのは、もしかすると多くの場合、われわれは、周囲から「与えられたもの」よりも、「与えたもの」についてより強く記憶しているのではないかとということである。日常の中で、「与えられたもの」に気づき、記憶にとどめることは意外と難しいことなのかも知れない。ただ、心理療法の中には、特別な手続きによって「与えられたもの」への気づきが高まると、情緒の安定性や意欲の

向上を始めとする様々な治療効果が得られる方法があることも知られている。消えてはいないはずの「与えられたもの」の記憶に、時にはアクセスしてみようか。



Hiroko Sugiawaka

杉若 弘子

心理学部教授

和歌山県田辺市出身。千葉大学教育学部卒業、
広島大学大学院生物園科学研究科修了。
博士(人間科学)(早稲田大学)。
臨床心理士、学校心理士。
早稲田大学人間科学部助手、
奈良教育大学助教授を経て、
2007年同志社大学文学部教授。
2009年4月より現職。

渡辺亮さんに聞く

インタビュアー
印藤 瞳さん
〔文学部英文学科3年次生〕

印藤 ● 阪神タイガースに入団されて活躍ですが、ご苦労もされたのでは。

渡辺 ● 入団して1年目はずっと2軍にいました。「このままでは、プロになった意味がない。とにかく1軍にあらなければ」と焦り、とても辛かったですね。

印藤 ● 渡辺さんは中継ぎ投手として実績を残しておられますが、難しい役割なのでしょうね。

渡辺 ● 確かに中継ぎは、いつ登板するかわからないため、先発投手よりも調整が難しいとされていますね。ただ出番が多いので、たとえ打たれても挽回のチャンスがすぐ訪れるというのは、私に合っていると思います。先発で負けて、次の出番まで何日も空いたら、考え込んで精神的に参ってしまうかもしれません。

印藤 ● ファンの方からは、先発で投げてほしいという声もあるのではないですか。

渡辺 ● 先発はしらないと思います。今シーズン、もし昨年まで中継ぎの久保田投手

渡辺 亮さん 【2004年商学部卒業】

1982年生まれ。徳島県鳴門市出身。鳴門工業高校時代に甲子園出場。大学時代には通算48試合に登板し26勝。2003年には関西学生野球秋期リーグにおいてチームを優勝に導き、自身も最優秀選手などに輝いた。卒業後、日本生命を経て2005年のドラフト指名で阪神タイガースに入団。2年連続で50試合以上に登板するなど、安定した投球でチームを支える。

が先発にまわったら、その役割を自分が担いたいと思っています。たくさん投手ですが、負けたくないですね。

印藤 ● チームメイトは仲間でありライバルでもありますね。そういうライバル的な選手はおられますか。

渡辺 ● 江草投手と私は役割が似ていたのですが、この2年間は「勝ち試合を作るのは自分たちしかない」と励ましあい、努力してきました。ただ練習でも試合でも、周りを意識せず、自分のやるべきことに集中しています。

印藤 ● 大学時代も、相当量の練習をこなしておられたのですか。





阪神タイガース投手

渡辺亮さんに聞く

渡辺 ● 私は部の中で一番練習しなかったかもしれない。今だから言えますが、練習中「ランニングに行く」とグラウンドを離れ、学内のゴルフ施設で打ちっぱなしをしたり…(笑)。野球は好きですが、練習はあまり好き نبودりではなかったですね。

印藤 ● たいへん意外なお話です。プロとなった現在はいかがでしょう。

渡辺 ● 今は練習をしないと不安になります。それがプロに入ってから大きく変わりました。試合前のランニングにしても、いくら走っても「これでいいのか」と思ってしまう。シーズンオフの間も、コートには休むと言われますが、身体を休ませながら鍛えるというか、身体を怠けさせないようにしています。

印藤 ● 自己管理がとても大切なのですね。

渡辺 ● 仕事ですから、やったらやっただけの評価がありますし、当然のことですが収入にも反映されます。プロになって、練習量だけでなく生活面や意識も変わりました。

印藤 ● 渡辺さんは子供の頃から野球選手になりましたか。

渡辺 ● 私は徳島県鳴門市で育ち、近くに鳴門競艇場があったので、もともとは競艇選手になりました。そのための体力をつける目的で野球をしていたのですが、高校2年生の時、身長が競艇選手の規定である170cmを超えてしまい、断念しました。それをきっかけに、野球に専念し始めたのです。

印藤 ● 鳴門工業高校時代には、甲子園に

も出場していらつしゃいますよね。

渡辺 ● 3年生の時、春の選抜大会に出場しています。

印藤 ● その後、大学でも野球を続けられるわけですが、同志社大学を選ばれたのはなぜですか。

渡辺 ● 最初は就職するつもりでしたが、両親の勧めもあり思い直しました。関東よりも実家に近い関西の大学を考え、大学の雄である同志社を選びました。

印藤 ● 大学時代は勉強との両立も大変だったのではないですか。

渡辺 ● 練習が忙しく、授業についてはかなり苦労しました。卒業する時は、必要単位ギリギリでしたよ(笑)。ゼミにも所属していましたが、グループワークが中心だったので、ゼミの友達には色々と助けてもらいました。

印藤 ● 今でも大学時代のご友人と交流がありますか。

渡辺 ● 野球部の同級生とは、年に一度は会っています。大学に進まなかったら今の自分はないと思うし、行ってよかったなと思いますよ。

印藤 ● 私はチアリーダーをしているのですが、応援が力になると感じられることはありますか。

渡辺 ● プレー中は集中しているので、応援が耳に入らないこともあります。ベンチに帰る時などに拍手で迎えてもらったり、声をかけてもらったりすると、やはり嬉しいですね。

印藤 ● 甲子園でのヒーローインタビュー

Tiger

をテレビで拝見したことがあります、やはり緊張されるのですか。

渡辺 ● 投げている時より緊張しますよ（笑）。あまり話すのが得意ではありませんので。

印藤 ● 大学時代にはリーグ優勝されていますよね。

渡辺 ● 4年次生の秋期リーグ、優勝がなかった試合が同立戦で、自分の力を出し切って勝った時は本当に嬉しかったですね。あの時は応援も盛り上がり、ものすごく力になりましたよ。

印藤 ● そんな試合、応援してみたかったです！その時には最優秀選手賞と最優秀投手賞を受賞されていますね。ところで試合の際、特に意識しておられることは

何かありますか。

渡辺 ● 大学の時ではありませんが、コーチに言われて昨シーズンから気をつけているのは、常に最悪の状態を考えておく、ということ。試合の流れを把握して、雨が降った場合や、満塁になるケースなど、その対処を考えておく。中継ぎですから、どういった場面で出番が来ても慌てないように心がけていますね。

印藤 ● なるほど、それは日常でも役立つことかも知れませんね。球のスピードに關してのこだわりはありますか。

渡辺 ● それはありませんね。上には上がいますし、スピードよりも課題はコントロールだと思っています。

印藤 ● これからの目標をお聞かせください。

渡辺 ● やはりタイトルを獲得したいですね。中継ぎの醍醐味は緊迫した場面で登板し、相手チームを抑えて、試合の流れを引き寄せることです。特にタイガースは中継ぎの役割が大きいチームですし、やりがいがありますね。

印藤 ● 同志社大学に通う後輩に、メッセージをいただけますか。

渡辺 ● 何をやるにしても楽しむことが一番です。私は野球が仕事ですが、いかに楽しむかを考えています。どんなことも楽しみながらやることで、充実した学生生活を送れると思いますよ。

印藤 ● 私もチアリーディングをもっと楽しみながら頑張ろうと思います。本日はありがとうございました。



INTERVIEWER

いんどう
印藤 瞳さん
文学部英文学科3年次生
(学年は取材時)

高校時代からチアリーディングを始め、現在は應援団チアリーダー部の部長を務める。全日本チアリーディング選手権関西大会では常に上位進出。今年は初のJAPAN CUP決勝進出に向けて、日々練習を重ねている。競技と応援、2つのチアリーディングをうまく両立させたいと語る。



プロとしての高い意識を感じた。

プロとして自己管理や、決めたことはやり抜くといった意識の高さはさすがだと思いました。私は競技チアリーディングもしていますが、渡辺さんの意思の強さを見習いたいです。また応援としてのチアリーディングでは、もっともっと選手の力になれる応援をしたいと強く感じました。

卒業生



夢を叶えた ジャズギタリスト

目標に向かって走り続けられ、そこにたどりつける

「彼らができるなら、自分にもできるはずだ。そう思うと、いてもたってもいられず、悩んだ末に会社を辞めました。しかし、プロになると決めただけで、プロという就職先があるわけでも、そこから何か始まるわけでもない。古い四畳半の部屋にひとりぼっちで、あるのはただ夢だけでした」

生活のために、とにかく働き始めた。朝の3時からパン屋で仕事をし、それを終えたらスタジオや部屋でひたすらギターを弾く。そんな厳しい生活を続ける中で、声をか



ホームグラウンドの木屋町Live spot RAGにて。リハーサル風景。

「音楽で飯を食いたい」
広島の子供は、そんな漠とした希望を抱いて、京都にやってきた。

「高校3年生の時、広島で渡辺香津美さんの野外ライブを見て、自分はジャズギタリストとして生きていくと決めました。当時から名門の呼び声が高く、全国にも名の知れた同志社大学のザ・サード・ハード・オーケストラでギターを弾きたい。大学にというよりは、サード・ハードに入りたいという思いで受験勉強に励みましたね」

入学後、ザ・サード・ハード・オーケストラ

のギタリストとして活躍。宝塚ジャズフェスティバルでは、2年連続でベストプレーヤー賞も獲得した。きつと注目されて、プロへの道が開けるはず――。

だが、現実には甘くはなかった。卒業後、音楽とは決別するつもりで大手眼鏡専門店に就職し、まったくギターに触れない生活を送った。しかし、就職から3年が過ぎた頃、同世代のプレーヤーが次々とデビューし始めたことを知る。

けてくれたのが、当時北山にあったライブハウス・RAGの経営者だった。

「ギターに夢中だった大学生が、会社を辞めて京都に戻ってきて、寝る間も惜しんで努

力を重ねている。一度ご褒美をあげよう、そう思ってくれたのでしよう。RAGの7周年記念ライブで、あの渡辺香津美さんたちと同じステージで、京都代表として出演させていたのです」

1987年の夏。27歳になつていた岡本さんに、プロギタリストとしての道が、この時ようやく開けた。

その後、精力的に活動を開始。まるでわらしべ長者」と振り返るように人脈を広げ、

1992年、「岡本博文ニューギタートバンド」を結成。1998年には村上秀一氏のプロデュースで、アコースティック・ギターによる初のソロアルバム「awango」を発表した。2007年にリリースした「Grand Blue」を機に、現在はエレクトリックを中心にしたユニット「Okamoto Island」を率い、全国を巡るライブツアーを展開している。

紆余曲折を経て「音楽で飯を食う」という夢が現実となった今、岡本さんは自身の道のりを振り返って、こう語る。

岡本 博文さん

1983年
文学部社会科学科社会学専攻卒業

ギタリスト。ジャズを中心に幅広いジャンルで活動し、エレクトリック、アコースティックとも、国内外で高い評価を得ている。本格的なラテンのリズム感覚を持ち、タンゴを伴奏できるギタリストとして、日本では貴重な存在。自身の「Okamoto Island」をはじめ、数多くのユニットで活躍中。



「この歳になつて思うのは、努力を続けることももちろん大切なのですが、目標があればそこに到達しないということ。どこに行くかもわからないままでは、一生懸命走っていても、どこにもたどり着けません。重要なのは、揺るぎない目標を持ち、それを忘れないことです」

「20代の頃はただ一生懸命なだけで、終わりの見えないトンネルのようでした。何度かやめようかと思いましたが、それでも諦めずに続けてきたのは、大きなことを言っ

て会社を辞めて、この道で頑張らなければ負けてしまう、という意地があったからですね」

「最初の目標に向かって、歩き続けることです」

そう呟いた後、「本当に、本当にそうです」と、嘯みしめるように繰り返した。

通信

女性の元気を応援する ベンチャリスト

理想論ではなく、経済で世の中を変えたい



「将来は社長になる」

子どもの頃からそう決めていたと言う。人間が好きで心理学に興味があり、高校生の頃にはフロイトやユングを読んでいた少女は同志社大学で政治学科を選択した。「『個』ではなく、『集団』がどう動くかを見たいと思ったので」

将来の進路を決定つける道標となったのは、大学に在学中の1985年、ケニア・ナイロビで開催された「国連婦人の10年」の世界会議に参加したことだった。

「世界の状況は、本や新聞からだけではな

く、現地で直接女性たちと触れ合わなければわかりません。また自分自身、今後どのように生きるか悩んでいた時期だったということもあり、絶好のチャンスだと思いました。就職活動での扱いも男女均等とは程遠い状況でしたし、大学院に進むか、公務員をめざすか、それとも民間企業で経験を積むべきなのか、進路を決めかねていました」

世界の女性たちが置かれる深刻な状況を目の当たりにしたことが、その後のステップへの大きなきっかけとなった。大学を卒業する時点では、まだ具体的なプランはない

ものの、おぼろげなイメージはあった。

女性が不自由なく「当たり前」に生きていくためのお手伝いをする。しかし、理想論や観念だけでは世の中は変えられない。世の中を動かすのは経済だ――。

営業力を鍛えるため、広告代理店に就職した。さらに企画力を身につけるため、専門学校での企画広報に転職。そこで勤める傍ら、フリーライターとしても活動し、勉強を重ねてカウンセラーの仕事もこなすという、多忙な日々を送った。自身の能力と、起業資金を獲得するために働いた。

ようやく独立のための下準備を整え、事業計画書をまとめ上げた矢先、思いもかけ

ないアクシデントが中居さんを襲った。1995年1月17日、阪神淡路大震災。

神戸市兵庫区の自宅は全壊し、最愛の母を亡くした。父の会社で経理をこなしながら、4人の子どもを育てあげた母。その姿こそが、中居さんにとって一番の「働く素敵な女性」だっただけに、ショックは大きかった。

「震災直後は、もう起業なんてできないと思っていました。しかし時が経つにつれ、瓦礫と化した街の中で、未来を見ずに暮らすことに耐えられなくなってきたのです。現状を何とかするだけという守りの姿勢は、私の性格では我慢できませんでした」

予定から遅れること半年、母の誕生日を起業の日と決めて、96年2月に株式会社ハート・アンド・キャリアを設立した。

現在、その事業は大きく3つの部門に分かれる。セクシャル・ハラスメントやパワー・ハラスメントの防止、女性のキャリア開発、メンタル・ヘルスなど、人材育成や能力開発のための企業研修を行うビジネスセミナー部門「キャリアアス」。子ども英会話の講師やチャイルド・セラピスト、花を使った芸術療法を行うフラワーハートセラピストなどを育てるキャリア開発・養成部門「ハートステップ・カレッジ」。そしてフラワーショップ部門「アーネスト・グリーン」では、webと店舗を通じて花の癒しを人々に届けている。

2003年10月には、全国商工会議所女



「美和せら」として、花の心理セラピーの普及活動も積極的に行う

な答えが返ってきた。

「まだまだ理想形ではありません。会社の規模も、世の中への影響力も小さいですからね。会社の目標の1つに『女性文化と男性文化の融合』を掲げています。双方を融合させることで生まれる相乗効果によって、男女の別なく能力を発揮できる組織を作りたい。それが実現した時、より社会的に影響のある会社になれると信じています。ですが、達成への道のりは遠いですね。それが、何よりも歯がゆいです」

中居 成子さん

1986年
法学部政治学科卒業

株式会社ハート・アンド・キャリア代表取締役。心理学を基礎に、自身の企業・組織運営経験に基づいた研修、講演、セミナーなどの講師やコンサルタント、カウンセラーとして活躍中。フラワーハートセラピスト「美和せら」として、「花の心理学」「花の心理セラピー」など著書多数。



このシリーズは、毎号さまざまな分野で活躍する卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して何を考えてきたかを取材しています。級友の方々にとっては良き近況報告、学生諸君には将来のキャリア・プランと学生生活の現実を考える機会になれば幸いです。

未来の自分のために、 目の前のことを悔いなく一生懸命に。



後すぐに関西日仏学館の講座に通い始めました。全くの初学者で、文字どおりゼロからのスタートでしたが、興味の向くまま勉強を継続できたのは、中学校から大学まで同志社で過ごしたおかげです。就職の時期を迎え、どうせならとフランス語を使う機会のある職場を探していた時、偶然募集を目にして、関西日仏学館で働くことになりました。

思い悩んだ末、結局受験を断念することにしました。途方に暮れる中で、以前の努力を買われて幸運にも復職でき、現在に至ります。

この仕事をしていて、語学の上達には日本語の能力が重要だと感じます。たとえばフランス語で書かれた文書を読む力は、どれだけ単語や文法を知っているかではなく、結局は日本語の能力と、それまでの勉強で蓄えた知識によるところが非常に大きいのです。私はあまり後悔をしない性格ですが、唯一後悔しているのが、大学時代にもっと学べることがあったにも関わらず、その目の前に力いっぱい取り組みなかつたことです。そのことを教訓にして、先のことは具体的に思い悩まないように、とにかく仕事も育児も、日々の生活で目の前にあることを大事に一生懸命やっついこう、それが未来の自分につながるのだと強く思っています。

関西日仏学館は、関西で唯一のフランス政府公式機関で、フランス大使館文化部管轄のもと、フランスの文化や言語の普及活動を行っています。フランス語資格試験を実施するほか、各種の文化活動、講演会や映画上映会を開催し、図書館にはDVDや蔵書を置いて外部の方も閲覧できるようにしています。一言で言えば、日仏の文化交流のための機関です。

私がフランス語に興味を持ったのは、高校3年の夏休みに、語学留学のためイギリスにホームステイしており、そこでフランス人一家と出会ったことがきっかけでした。直感的に興味を持ち、帰国

きた私は、ひとつのことを自分の限界まで勉強した経験がありませんでした。法律学科出身ですので、挑戦するなら今が最後だと考え、司法試験の受験を決意したのです。司法書士の夫は「やりたことがあるのならやればいい」と賛成してくれましたし、私も「勉強という自分との戦いを、どこまでできるか頑張ってみよう」と意気込んでいたのですが、そんなところへ妊娠したことが判明。喜びと将来への不安が交錯する中で、それ以降、勉強を続けていく体力や集中する気力を失ってしまいました。子どもを持ちながら勉強を続け、合格している方もたくさんいらっしゃるのですが、

P R O F I L E



亀井 みかさん
【1990年法学部法律学科卒業】
関西日仏学館
教務秘書
フランス語資格試験担当

「子どもには親が一生懸命働いている姿を見せたい」と言う亀井さん。第1子出産当時は、関西日仏学館でも、出産を経て仕事を続ける日本人職員は例がなかったが、「子どもができたからといって辞める必要はない。意欲があるなら続けるべきだ」と後押ししてくれたのは、フランス人の上司だった。「一定の年齢になると、子どもを持つ女性の雇用が敬遠される日本との違いを感じます」と話す。

私と「仕事」

得意な英語を活かして転職。
社会に「安全」を届けることに
充実を感じる日々。

当社はさまざまな製品の安全検査をしている会社です。ここ数年、ガス器具、エレベーター、遊具、食品などの事故が相次ぎましたが、そのような事故を未然に防ぐため、メーカーの方々のサポートをしています。私は主に自動車に関する安全検査を担当していますが、乗用車、トラック、オートバイ、トラクター、ボートなど、エンジンがついているものを中心に、車



載用品のオーディオなども対象となります。たとえば、排気ガス中のCO₂（酸化炭素）やNO_x（窒素酸化物）といった有害物質の含有量、機体の衝突安全性、ブレーキの制動距離やABS（アンチロック・ブレーキシステム）の性能評価などを、法規に基づいて検査しています。また、ISO 9000:2014:000シリーズを取り扱うほか、ブランド模造品の調査やCSR活動にも携わっています。

私はメーカー勤務の父が海外駐在中、アメリカで生まれました。9歳まで暮らし、一度日本に帰国。13歳からイギリスに渡り、高1の途中で再び日本に帰り、同志社国際高校に編入しました。海外では日本人学校ではなく現地の学校に通っていたので、兄弟同士の会話も英語。いつか帰国するのだから、日本語で話さない」と母にはよく注意されましたが、なぜ苦手な言葉で話さなければならぬのかと思っていました。日本の小学校時代、英語で兄弟げんかをしていたら、近所の人に不思議な目で見られたこともありましたね。

大学卒業後、4年間は自動車メーカーで働きました。得意な英語を活かし、人と接する仕事があったので、海外営業という業務は希望通りでしたが、工学部で学んだことをもっと活かしたいと考えていました。地元の関西に戻りたいという気持ちもあり、転職先を探していたときに、今の会社の求人があったのです。技術系の人材を募集しており、会議はもちろん、人事規格からパソコンのOSまで、社内公用

P R O F I L E



川北 正勝さん

【1999年工学部
機能分子工学科卒業】テュフラインランドジャパン株式会社
西日本地域担当オフィス
運輸・交通部 課長

大学時代は4年間、バスケットボールの同好会に所属。後半の2年間は外国人バーでアルバイトをし、さまざまな人種・年齢の人と接したことが、現在も活きているという。快活で社交的な好青年ぶりが際立つが、高校1年で帰国した時には、自分が日本人なのか外国人なのかどこに属しているのかわからないという、帰国子女特有のアイデンティティクライシスに陥ったことも。「そういった意味でも、今の会社はとても居心地がいいですね」と笑う。

語は英語。ちょうど自動車の部署に空きがあり、しかも勤務地は関西、能力に応じた評価をもらえるベイ・フォア・パフォーマンスにも魅力を感じました。

転職した理由の1つに、社会に貢献したいという思いもあったので、より安全な製品を世の中に送り出すという仕事にやりがいを感じています。また常に最先端の技術を知ることができるのも、技術者としては恵まれた環境だと思っています。当社は一般的な知名度は比較的低いかもしれませんが、世界中に1万人以上の社員がおり、それぞれの業界の専門家にはよく知られています。もちろん、オーダーからフィードバックまで現場で対応するのは私たち社員ですから、会社の名前に恥じない仕事が必要です。また、会社も個人のスキルを重要視していますし、私を信頼してお客様から依頼をいただくこともあるので、状況に応じた適切な判断を心がけています。これから先も、培ってきたノウハウをさらに積み上げ、自分を磨いていきたいと思います。

C E M E N T

♪観に行こう聴きに行こう♪—学生団体4月～5月の活動予定—

【京田辺校地ハローホール(多目的ホール)】

- 4月8日(水)邦楽部「新入生歓迎演奏会」 時間未定
- 4月10日(金)喜劇研究会「お笑いライブ」 12:30～
- 4月13日(月)SOUL 2 SOUL「新歓ステージ」 12:30～
- 4月14日(火)学生支援課「新入生歓迎講演会」 15:00～
- 4月15日(水)同志社交響楽団「新入生歓迎演奏会」 12:30～(ホールラウンジ)
- 4月15日(水)F.B.I「映画上映会」 時間未定
- 4月16日(木)F.B.I「映画上映会」 12:30～
- 4月18日(土)コクトウ「新歓ライブ」 時間未定
- 4月20日(月)映画研究会「自主映画上映会」 12:00～
- 4月22日(水)The Amplugged「新歓ライブ」 15:00～
- 4月24日(金)Hocus-Pocus「新歓公演」 12:30～
- 4月27日(月)喜劇研究会「お笑いライブ」 13:30～
- 5月8日(金)neuf「新歓show」 12:30～
- 5月14日(木)軽音楽部「新歓コンサート」 時間未定
- 5月16日(土)PENTA「5月ライブ」 時間未定
- 5月27日(水)喜劇研究会「お笑いライブ」 13:30～
- 5月30日(土)軽音サークルF.S.S「前期オープンホールコンサート」 12:00～

【寒梅館ハーディーホール】

- 5月3日(日)ギタークラブ(立教大学スペインギタークラブ共催)「ジョイントコンサート」 17:00(16:30)入場無料

【寒梅館クローバーホール】

- 4月8日(水)交響楽団「新入生歓迎演奏会」 17:30(17:00)入場無料

【学外】

- 5月30日(土)マンドリンクラブ「第154回定期演奏会」18:00(17:30)500円
大阪府立青少年会館 文化ホール(JR大阪環状線「森ノ宮駅」から西へ約500m)



bふらっとプログラム

ハローホール(多目的ホール)では、コンサートや映画上映など、多彩な文化プログラムを行っています。ふらっと…ハローホールにお立ち寄りください。

【場所】ハローホール(多目的ホール)

※内容・日程は都合により変更となる場合があります。

URL: <http://www.doshisha.ac.jp/students/support2/kaprog/flat/>

【クラブサークル活動映画傑作選】①

4月28日(火) 12:30～、15:00～ うた魂! (2008年、120分)
監督:田中誠 出演:夏帆 / ゴリ(ガレッジセール) / 石黒英雄 他

【bラウンジライブ!】①

5月12日(火) 12:30～ @ホールラウンジ「The Stomps」
関西を代表するブルースバンド!

【bラウンジライブ!】②

5月26日(火) 12:30～ @ホールラウンジ
「The AVALON SPIRAL BAND (アバロンスパイラルバンド)」
未知なる民俗音楽の渦の中へようこそ!



京町家を拠点にした異世代協同プロジェクト

「子ども」「大人」「学生」「高齢者」が入り交じる町家「でまち家」で一緒に活動してみませんか。世代混合のサークル活動や、議論の場が展開されています。異世代との交流を通して、より豊かな学生生活を送るお手伝いをします。

【でまち家】京都市上京区寺町通今出川下ル西側(今出川校地から東へ徒歩7分)

【開室時間】火曜日～金曜日11:00～19:00 土曜日 9:00～12:00

●町家でサークル活動をしよう

子どもを交えた異世代混合のサークル活動を行います。手話・茶道・アニメ作りなど。

【日時】火曜～金曜(5月12日～7月17日、各サークル週1回・全10回)

※サークルによって開催曜日、時間が異なります。詳細はお問い合わせください。

【参加費】無料

●いろんな人と井戸端会議をしよう

携帯電話・地球温暖化・公共マナー・赤ちゃんポストなど、様々な社会問題について異世代の意見を聞いてみます。

【日時】月1回 19:00～ 【参加費】無料

●季節行事で京都の四季を感じよう

水無月を食べたり、地藏盆を楽しんだり、京都ならではの季節行事を、子どもから大人までみんなで体験します。

【日時】月1回 土曜日10:00～12:00

【参加費】材料費がかかる場合があります。

【学生スタッフ募集】

子どもと一緒に遊んだり、地域のひとと季節行事を楽しんだり、京町家ならではの生活を体験したり、町家プログラムに関わる全てについて一緒に企画・広報・運営してくれる学生スタッフを募集しています。

【お申し込み・お問い合わせ先】同志社大学「でまち家」

TelおよびFax:075-211-5176 E-mail: ji-machi@mail.doshisha.ac.jp

ホームページ: http://www.doshisha.ac.jp/students/support2/machiya_project/

ブログ: <http://demachiya.kyo2.jp/>

学生保健部会 献血

今出川校地

【日時】4月20日(月) 10:00～15:45(休憩11:15～12:15)

【場所】今出川校地 明徳館ラウンジ前

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課Tel:075-251-3281

京田辺校地

【日時】4月24日(金) 10:15～15:30(休憩11:15～12:15)

【場所】ラーネット記念図書館裏

【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課Tel:0774-65-7435

学生保健部会 アルコールパッチテスト

今出川校地

【日時】4月3日(金)、6日(月)

9:00～15:00(休憩12:00～13:00) ※定員(各日50名)に達し次第終了。

【場所】尋真館(2)1階ラウンジ

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 Tel:075-251-3281

京田辺校地

【日時】4月2日(木)、3日(金)、4日(土)、6日(月)

9:00～15:00(休憩12:00～13:00) ※定員(各日100名)に達し次第終了。

【場所】知真館3号館(TC3)入口

【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課 Tel:0774-65-7435



アッセンブリーアワー学生企画募集

各界でご活躍の方々をお招きし、幅広い知識と教養を書物やテレビを通してではなく、直接講師の人柄に接することによって得られる機会として、アッセンブリーアワーという時間を設けています。講演会、コンサート、演劇、映画、作品展等、多様な形態で開催しています。皆さんの意欲と知識によって企画をプロデュースする「アッセンブリーアワー学生企画」を募集します。

【対象】本学学生

【募集する企画の実施期間】5月～7月

【お申し込み】4月20日(月)～5月15日(金)の間に、所定の企画書に必要事項を記入のうえ、両校地いずれかの学生支援課へ提出してください。

※実施については、学生支援課で選考・決定します。

※実施予算及び補助額は1企画10万円程度とします。

※企画終了後、報告書および決算書を提出してもらいます。

※2009年度秋学期分の受付も行います。

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 Tel:075-251-3270



障がい学生支援制度サポートスタッフ大募集!

本号の特集にもなっているように、あなたもサポートスタッフのメンバーになりませんか! 障がい学生支援室では同じキャンパスで学ぶ障がい学生(Challenged)のサポートスタッフを募集しています。初めての方でもできることはたくさんありますので、ぜひスタッフに登録してパソコン通訳、ノートテイク・ビデオ字幕付け・車椅子介助などのスタッフとして活動して下さい! 入門講座も随時開催していますので興味のある方は学生支援課までご連絡ください。 ■謝礼:880円/時間
＜支援活動の内容＞

聴覚障害: ノートテイク、パソコン通訳、手話通訳、ビデオ字幕付け、ビデオ文字起こしなど
視覚障害: 講義資料・試験問題の点訳、電子データ化、拡大コピー、対面朗読、

代筆、代読、ガイドヘルプなど

肢体不自由: 代筆、車椅子介助、トイレ介助、食事介助など

【お申し込み・お問い合わせ先】

京田辺校地学生支援課 障がい学生支援室

Tel:0774-65-7411 E-mail: jt-care@mail.doshisha.ac.jp

今出川校地学生支援課 障がい学生支援室

Tel:075-251-3273 E-mail: ji-care@mail.doshisha.ac.jp

新入生対象フレッシュャーズキャンプ2009参加者募集!

同級生、上級生と教職員スタッフと触れ合う1泊2日。新入生の皆さんが有意義な大学生活を送るきっかけとして、また学部を超えた友人を作るチャンスとして、ふるってご参加ください!

【日程】①4月18日(土)～19日(日) ②4月25日(土)～26日(日)

【定員】各回100人(学部新入生対象) 【参加費】5,700円

【場所】同志社びわこリトリートセンター

【お申し込み】①4月6日(月)～14日(火) ②4月6日(月)～21日(火) *先着順受付
3月に郵送されている申込書に記入のうえ、両校地いずれかの学生支援課へ(定員になり次第、受付終了)。

【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課 Tel:0774-65-7410

今出川校地学生支援課 Tel:075-251-3270

新入生歓迎特別講演会

川上 未映子氏 「物語のちから」

2008年『乳と卵』で第138回芥川龍之介賞を、また、2009年『先端で、さすわ さされるわ そええわ』で第14回中原中也賞を受賞するなど、作家として第一線で活躍されている川上氏から、大学という場で大切にしたいこと、感じてほしいことなどについて、メッセージを語っていただきます。

【日時】4月13日(月) 15:00～

【場所】今出川校地寒梅館ハーディーホール

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 Tel:075-251-3270

※入場制限をかける場合があります。詳細は学内掲示板やホームページなどをご確認ください。

川淵 三郎氏 「夢があるから強くなる」

「Jリーグ初代チェアマン」「日本サッカー協会会長」として「日本サッカーの強化」と「地域スポーツの振興」に尽力された川淵氏に、大学生活を送るうえでのメッセージを熱く語っていただきます。

【日時】4月14日(火) 15:00～

【場所】京田辺校地ハローホール(多目的ホール)

【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課 Tel:0774-65-7410

新入生歓迎・筍掘り&焚き火の会

キャンパスに群生する筍を掘って、筍ご飯作りに挑戦します。香りかぐわしい筍ご飯を楽しみながら、燃えさかる炎の前で語らえば、初対面でもすぐに打ち解けられます。2年次生以上の参加も歓迎です。

【日時】4月11日(土) 13:30～ 【場所】リザーブ1集合

【参加費】無料(汚れてもよい服装でご参加ください)

【お問い合わせ先】S-cube(京田辺校地学生支援課・副業館1F) Tel:0774-65-7021

第27回函館キャンプ参加者募集

創立者新島襄が、1864年に国禁を犯して脱国した地、北海道・函館で“新島襄の行き方を学び、同志社を見つめ、人と人との出会いやふれあいの中、自分自身を振り返ってみよう”という趣旨で行われる5泊6日のプログラムです。

【実施期間】2009年8月17日(月)～22日(土)

【お申し込み】2009年4月20日(月)～5月15日(金)の間に、所定の申込書に必要事項を記入のうえ、両校地いずれかの学生支援課へ提出してください。

【定員】30名 【参加費】29,000円

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 Tel:075-251-3270

※4月20日(月)に今出川校地で、4月22日(水)に京田辺校地で、それぞれ説明会を開催します。詳細は学内掲示板やホームページなどをご確認ください。

Hardience(ハーディー友の会)メンバー募集中!

同志社大学今出川校地学生支援課では、より多くの方に、寒梅館のイベントをきっかけとして本学および本学学生の活動に関心を持っていただくために、ハーディー友の会にご参加いただける方を募集しております。お申し込みは、今出川校地学生支援課窓口にて、随時受付中です。

【対象】本学卒業生・一般・他大学生(本学学生・教職員は対象外とさせていただきます) 【会費無料】

【特典】寒梅館イベント情報の郵送、案内メール配信、映画招待券やコンサート入場券のプレゼント(抽選)・入場料割引、学生団体による公演・お芝居等へのご招待、寒梅館レストランでの割引etc.

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 Tel:075-251-3270



同志社ローム記念館プロジェクトメンバー募集

同志社ローム記念館プロジェクトは、産官学地域連携による、課外の人材育成プログラム。現在、2009年度のプロジェクトに参加する学生・生徒を募集しています。

プロジェクトルームを拠点に、充実の1年を過ごしませんか?

2009年度のプロジェクト一覧や説明会などの情報、メンバー申込票のダウンロードは、ローム記念館ホームページ(<http://rohm.drm.doshisha.ac.jp/>)からどうぞ。

【お問い合わせ先】京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)

Tel:0774-65-7800 E-mail:jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp

「自己プログレスレポート」受検者募集!

これまでの学生生活を振り返り、現在の成長度や考え方のスタイル、強みなどを判定する検査「自己プログレスレポート」(ベネッセ)を実施します。これからの学生生活の過ごし方や将来の進路について考えるきっかけとしてぜひ活用してください!

【受検日】4月20日(月) 16:45～18:15 ※事前受検も可。申込時にご相談ください。

【対象】主に2・3年次生

【受検料】3,100円(ローム記念館プロジェクトメンバー:800円)

※受検料には、「結果報告書」「活用ガイドブック」および「活用セミナー」受講料が含まれます。

※「結果報告書」は、原則として5月20日(水)の「活用セミナー」にて配付します。

【申込期間】～4月17日(金)

※詳細は、ローム記念館HP、ポスター、チラシ等にてご確認ください。

【お問い合わせ先】京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)

Tel:0774-65-7800 E-mail:jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp



WOT(ワット)="What's on Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール

【料金】本学学生・教職員はすべて無料

cinema

●4月16日(木)映画「長い散歩」10:30～/13:30～/16:00～/18:30～

監督・企画・原案:奥田瑛二 出演:緒形拳、杉浦花菜、高岡早紀、松田翔太

●4月23日(木)映画「おいしいコーヒーの真実」16:00～/19:00～ 17:40～講演あり

監督:マーク・フランシス ニック・フランシス

●5月7日(木)映画「エリン・ブロッコビッチ」(時間未定)※京都初上映

監督・脚本:フランシス・F・コッポラ 原作:ミルチャ・エリアーデ

出演:ティム・ロス、アレクサンドラ・マリア・ララ、ブルーノ・ガンツ

●5月14日(木)《憲法月間 映画のつどい》映画上映会(詳細未定)

●5月21日(木)写真映画「ヤーチャイカ」上映と朗読・音楽ライブ 18:00～

上映「ヤーチャイカ」(2008年/日本/70分)

監督・原作・脚本・語り:覚和歌子 監督・脚本:谷川俊太郎 音楽:丸尾めぐみ

出演:香川照之、尾野真千子

朗読・音楽ライブ ゲスト:谷川俊太郎、覚和歌子、丸尾めぐみ

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 Tel:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心に様々なイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階)

【料金】入場無料

《エリック・ロメール特集》

●4月14日(火) 17:00～『緑の光線』(1986)

18:55～『恋の秋』(1998)

●4月21日(火) 16:00～『木と市長と文化会館』(1992)

18:00～『グレース公爵』(2001)

《ハリウッドの肖像3》

アイダ・ルビノ 女優から監督へ そして女性メロドラマから男性メロドラマへ

17:00～参考作品上映 18:45～講演:加藤幹郎(映画批評家)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 Tel:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。また、5月も映画上映を中心としたプログラムを予定しています。詳細はお問い合わせください。

My Purpose

挑戦する人



「SUCRE CUIT」 <http://www.sucrecuit.com/>

在学中にアンティークのwebショップを開業 ～女性が結婚・出産しても働ける会社を作りたい～

フランスやイギリスのアンティーク雑貨、テキスタイルなどを扱うwebショップ「SUCRE CUIT(シュクレキュイ)」を立ち上げたのは2006年、大学3年次の冬です。結婚前にテキスタイルデザイナーをしていた母が、趣味でアンティークの布を集めており、その影響で私も小さい頃からアンティークが好きでした。大学に入学した年、母と訪れたフランスで美しい品々に出会い、本格的に興味を持つようになりましたが、その頃は自分が起業するとは思ってもみませんでした。

価値観を変えるきっかけになったのは、2年次の夏、イギリスへの留学でした。他国からの留学生は、明確な目的を持って努力を重ねているのに、自分は何の目標も持っていないと気づき、将来何をしたいのかを真剣に考え始めたのです。そこでたどり着いたのは、「業種に関わらず、結婚・出産を経てもずっと仕事を続けていきたい」という結論でした。それならば企業に勤めるよりも色々融通が利くのではと考え、起業について具体的に思い描くようになりました。

ショップをオープンしてからは、年に2～3回フランスに赴き、アンティークのショップやマーケットで、主に1920～1950年頃の商品を買っています。昨年11月には、偶然webショップを訪れた出版社の方が興味を持ってくださり、『フランスのアンティークファブリック』という本を出版することができました。それをきっかけに一般の

企業からお仕事をいただくなど、お店の可能性は大きく広がってきています。今のところはアンティーク専門ですが、ゆくゆくはインテリア雑貨なども扱い、オリジナルの商品も作っていきたく考えています。

07年に経済学部を卒業し、現在は「SUCRE CUIT」の運営をしながら、大学院総合政策科学研究科の企業政策コースで「女性労働と女性起業」をテーマに研究をしています。経営に関する知識が不十分なままショップを立ち上げたので、もっと深く勉強する必要があると感じ、大学院に進むことにしました。また研究科には社会人学生が多く、様々な分野で活躍する方々と触れ合えることも、とても刺激になっています。

結婚・出産をした女性の7割以上が仕事を辞めているのが、日本の現状です。私の仕事も今は個人事業ですが、将来的には法人化も視野に入れ、そういった女性たちを積極的に雇用できる会社になりたいと思っています。もちろん、自分自身も結婚や出産をしても働き続けるつもりですし、そうすることで、社会に少しでも影響を与えることができると考えています。

Profile



岩田 紗代子さん

【大学院総合政策科学研究科
博士課程(前期課程)2年】

※学年は取材時